

■一般目標

- あらゆる月齢・年齢の子どもの発育・発達を社会心理面も含めて包括的に評価するスキルを習得する。
- 発達の異常（発達遅滞および発達障害）、行動の異常の早期発見および早期介入を行うことができる。
- それぞれの子どもの発育・発達・心理社会面を評価したうえで、発育・発達を向上するための、さらには健康を促進するための指導・助言ができる。

■当院の特徴

当院は総合診療科外来にて、発達の異常を主訴として受診する多くの患者対応を行っている。また、心身症を呈し、生活習慣および環境の調整を要する思春期児童も多い。基礎疾患のある子どもは、他科や他職種と連携してその発育・発達を促すべく診療にあたっている。

一方で、健康促進（ヘルスプロモーション）を目的とした一次予防的介入の場は確立できていない。ナショナルセンターとして、あらゆる子どもの健康を促進することが新たな小児科の役割であると示していく必要がある。

■各論：獲得目標

①発育の評価ができる

- 適切に計測を行い、成長曲線を用いて、子どもの発育を評価できる
- それぞれの子どもの年齢・活動度に応じて、適切な必要カロリー・水分量を理解し、助言できる
- 発育不全を呈する病態の鑑別ができる
- 経口摂取困難や嚥下機能障害、経管栄養依存、経腸栄養依存の子どもに対しても、発育を最大限に促すべく栄養のマネジメントができる

②発達の評価ができる

- 発達に影響する健康の社会的因子（例：養育環境、集団保育の有無）を聴取し、評価できる
- 発達評価ツールを理解し、実践できる（デンバー、遠城寺、KIDS など）
- 各種発達検査の適応を理解し、心理士に依頼できる（新版K式、田中ビネー、WISC-IV、WPPSI-III、DN-CAS）
- 各種発達スクリーニング質問紙の適応を理解し、実践または心理士に依頼できる（M-CHAT、PARS、AQC、ADHD-R、子どもの強さと困難さテスト等）
- 発達遅滞・発達障害のある子どもへ発達の促し方を指導できる
- 発達遅滞について保護者に説明・カウンセリングできる
- 発達障害について保護者に説明・カウンセリングできる
- 発達遅滞を呈する基礎疾患の有無を評価できる

③前思春期～思春期特有の発育・発達の問題を評価できる

- この年齢の子どもに対して円滑に医療面接ができる
- 身体症状および精神・行動面の症状だけではなく、心理社会面も聴取し総合的に子どもの発育・発達、病態を評価できる
- この年齢の健康を損なうリスク因子に関して、データを収集し解析する

④ヘルスプロモーションのための新たな健診の場を確立する

- プレコンセプションセンターの活動の一環として、新たな健診の場を作る過程に参加する
 - 主たる対象は、まずは前思春期～思春期の子どもである。(思春期健診)
 - ヘルスプロモーションの社会実装促進のためのパイロットとして行う
 - ◇ 健診対象者の社会的情報の抽出と質問紙作成
 - ◇ アウトカム評価表作成
 - ◇ 有料で実施する際の金額の妥当性の検討
 - ◇ コメディカルとの連携の可能性の検討
 - ◇ 他の年齢層への拡大の可能性の検討
 - 現在実施を検討している事項
 - ◇ 小児の行動科学にもとづく保護者への適切な育児指導 (ペアレンティング)、子どもへの健康教育・生活指導を行う。(一次予防の実践)
 - ◇ 小児の健康の社会的決定因子についてデータを収集する

■研究活動

- 発育・発達を主題にリサーチクエスチョンを考える
- ヘルスプロモーションの社会実装促進のため研究を行う

■関連学会

日本小児科学会

日本小児保健協会

日本外来小児学会

日本小児科医会

その他